



サンタクロース

12月と言えば、サンタクロース。赤い服に白い髭、笑顔でプレゼントを届けるサンタクロースは、多くの子どもたちにとって特別な存在です。しかし、この象徴的なキャラクターには、実は深い歴史があります。



サンタクロースの秘密 – その起源と世界各地での姿

サンタクロースの起源は4世紀のキリスト教の聖人、聖ニコラウスが起源と言われ、聖ニコラウスは困難に直面していた人々を助けた慈悲深い人物であり、特に子どもたちへの愛情が深かったと言われています。聖ニコラウスの日である12月6日に贈り物をする風習があり、その風習が現代のサンタクロースのイメージとクリスマスへ発展しました。サンタクロースは国ごとに異なる姿や特徴を持っています。各国で異なる文化や伝統とワクワク、サンタクロースのイメージが多様化しています。いくつかの国でのサンタクロースの違いをご紹介します。



アメリカ
(サンタクロース)

アメリカでは、サンタクロースは陽気で太った男性として知られており、赤い服を着て、トナカイが引くソリに乗ってクリスマスイブにやって来ます。彼は夜中に煙突から家に入り、子どもたちの靴下やツリーにプレゼントを届けます。このイメージは1930年代の大手飲料会社の広告によって広まり、世界的に知られるようになりました。



フィンランド
(ユーロプッキ)

フィンランドのサンタクロースは「ユーロプッキ」と呼ばれ、彼は北極圏のラップランド地方からやって来ます。ユーロプッキはトナカイのソリではなく、足で歩いてプレゼントを届けるという特徴があります。家族の集まりの中で実際に登場し、子どもたちにプレゼントを手渡します。



オランダ
(シンタクラース)

オランダでは、サンタクロースに似た存在として「シンタクラース」がいます。彼は12月5日、聖ニコラウスの日の前夜に子どもたちにプレゼントを届けます。私たちは、彼の姿は司祭のような長い赤いマントと帽子が特徴です。また、シンタクラースは「ズワルト・ピート」という助手と共に活動します。



フランス
(ペール・ノエル)

フランスでは「ペール・ノエル」という名前でサンタクロースが知られています。彼は主に12月24日に子どもたちにプレゼントを届け、フランス南部では「サビニョル」という白いロバに乗ってやってくるという伝承もあります。また、子どもたちが暖かい炉のそばに靴を置いて、そこにペール・ノエルがプレゼントを入れてくれると信じられています。



このように、各国でサンタクロースの姿や伝統は大きく異なりますが、どれも子どもたちの夢や喜びを大切にしています。

現場作業日記

年末年始の備え

ある日、お客様からお問い合わせがありました。

「こんなことはお願いできますか？」

お客様の話によると、年末年始はお客様の子供やその家族が家に集まってくるのだそうで、お客様は家のお掃除をしたり、お料理の下ごしらえをして、やってくるのを楽しみにしているのだそうです。そして、今年の年末年始は、いつもよりも多くお客様の家に集まってくるのだそうです。なので、それに伴い、年末年始で使う食材等を大量に買い込むので、手伝って欲しいとのこと。なるほど、皆で楽しく過ごすための準備ですね。これは是非お手伝いなくては。

お客様と今年の正月をどう過ごそうかと楽しくお話ししながら、お客様のおすすめのお店をいくつかまわり、必要なものが全て揃って作業完了。

「ちょっと買いすぎちゃったかもしれないわ。でもこれも醍醐味よね」と、お客様は楽しそうに笑っていました。

皆さんの年末年始はどうですか？

これからどんな難題が来ようと、西へ東へ走り回り、様々なお客様のお困りごとに“YES”とお答えしていきます！！



● お客様の喜びの声 ●

- とても丁寧に作業をして頂きました。こちらの希望を聞いてくださり、説明しながら作業をしてくださり本当にありがとうございました。
- 即日作業をしていただけてありがたかったです。時間も正確で感じよくとても親切にいただきました。
- 今回初めてお願いしましたが、価格が明瞭で安心しました。スタッフの方も感じのいい方でした。

